



# 第39回多摩川流域セミナー

## 「広げてつなごう、川づくりの輪」



### 開催報告

#### 1. セミナー概要

- 日時：2012年10月28日（日）
- 場所：二ヶ領せせらぎ館（JR南部線・小田急小田原線「登戸駅」から徒歩5分）
- 参加人数：全99人（一般参加者64名、スタッフ35名）

※今年のテーマは「広げてつなごう、川づくりの輪」です。そこで、新たな取り組みとして、若い世代（学生）にセミナーに参加してもらい、さらに、皆さんに楽しんでもらおうという趣旨で小さなお祭り（集い）を企画しました。そのため今回は、第1部を「多摩川流域セミナー」、第2部を「多摩川の集い」という2部構成で実施しました。

#### 2. プログラム

【第1部：多摩川流域セミナー】 10:00～12:30

総合司会：佐山 公一（市民部会）

- ① 開会の挨拶：中村 文明（多摩川流域懇談会運営委員会 委員長）
- ② 市民部会の発表：神谷 博  
「これまでの多摩川流域懇談会 市民部会を中心に」
- ③ 学生の発表
  - ・ 専修大学：「多摩川夕涼みコンサート」企画・開催について
  - ・ 東京農業大学：「源流放課後の会の活動」について
  - ・ 法政大学：「多摩川フィールドゼミナール」実施報告について
- ④ 国（河川管理者）の発表：佐々木 智之（京浜河川事務所 調査課長）  
「多摩川の川づくりについて」  
～～～休憩～～～
- ⑤ 意見交換・フリートーク  
司会進行・コーディネーター：佐山 公一（市民部会）・ 箕輪 秀生（川崎市）
- ⑥ 閉会の言葉：和泉 恵之（京浜河川事務所所長）



【第2部：多摩川の集い】 12:30～15:00

☆多摩川の源流がある小菅村産の食材や非常食などの試食、その他イベントを行いました。

詳細は12Pをご覧ください。

☆パネル展示

学生の発表内容や各団体の多摩川に関する取り組み等についてパネルを展示しました。

詳細は14Pをご覧ください。



### 3. 第1部（多摩川流域セミナー）

#### ①開会あいさつ：中村 文明（多摩川流域懇談会運営委員会 委員長）

##### 【概要】

- ・ 今年、「広げてつなごう、川づくりの輪」というテーマで、第39回目の多摩川流域セミナーを開催します。
- ・ これまで、河川管理者、自治体、市民部会がパートナーを組んで多摩川について考えてきましたが、連携の広がりが少ないという課題がありました。そこで今回は、大学と連携し学生から発表を行ってまいります。また、一方で企業との連携についても取り組んでいます。現在、多摩川流域の各企業に多摩川のいい川づくりに参加してもらうようお願いしており、様々な企業がいい川づくりに参加を希望しています。
- ・ 今後の構想として、本日の多摩川の集いで実施する「多摩川もの知り検定」を継続していき、企業と連携して検定を広げていきたいということ。そして、多摩川源流の小菅村も含めて、源流から河口まで一体となって、多摩川ファンを増やしていきたいと思っています。



① 中村委員長挨拶



②市民部会（神谷さん）発表

#### ②「これまでの多摩川流域懇談会 市民部会を中心に」：神谷 博（市民部会）

##### 【概要】

- ・ 1972年の「多摩川の自然を守る会」から始まり、多摩川流域では様々な市民活動や川づくりが盛んに行われてきました。そして、国、自治体、企業、市民が協力していい川づくりをしようということになり、各団体の話し合いの場として、多摩川流域懇談会が設けられました。現在は、市民、行政、学識経験者が中心となり、この流域懇談会を通して、多摩川のいい川づくりについて考えています。
- ・ 河川整備計画の話が出る以前は、行政と市民は対立していました。しかし、河川法が改正され、河川整備計画の策定が義務づけられたのを機に、行政と市民とのパートナーシップが始まり、たくさんの議論を経て河川整備計画が策定されました。そしてその後も、現在まで約10年間パートナーシップを実践してきました。
- ・ 昨年3月11日の東日本大震災を受けて、市民や行政だけではなく、産官学民が連携して絆を広め、強めていく必要を感じました。そして、今日は大学の学生に参加してもらっています。今回のセミナーが、その絆を広げ強めていく第1歩になれば良いと思っています。

### ③学生の発表

専修大学、東京農業大学、法政大学による多摩川流域における活動内容の発表です。

#### ③ - 1 : 専修大学

課題解決型インターンシップの一環で多摩川夕涼みコンサートに参加した時の活動内容についての発表です。

##### 【概要】

- ・ 下記の活動目標のもと、6つのグループ（合計50人）に分かれて、活動を行いました。

<活動の目標>

- ・ 地域の皆さんに、多摩川に足を運んでもらうこと
- ・ エコについての知識を提供すること
- ・ 人と人がつながること（地域の人と参加学生）

表1 各グループの活動内容

グループ名	活動内容
A	・ アクリちゃんの塗り絵で団扇の作成 ・ 多摩川のエコクイズ （多摩川の歴史と環境、日常行えるエコ活動について）
B	・ ペットボトルでボトルシップの作成 ・ 牛乳パックで灯籠の作成 ・ スタンプラリー
C	・ ウォーターズナイパー ・ 竹林整備
D	・ 保育園の訪問 ・ 塗り絵 ・ WEBページ ・ 広報活動
E	・ アクリちゃんのオブジェ ・ 竹風鈴 ・ エコバック
F	・ ろ過装置を利用したきれいな水づくり



③ - 1 専修大学の学生による発表



参加者の様子

### ③ - 2 : 東京農業大学

多摩川源流大学の取り組みと源流放課後の会についての発表です。

#### 【概要】

- ・ 多摩川源流大学は、山梨県小菅村で行われる特別授業のことであり、学内の講義とは別に、実体験を通じて、自然と文化にふれ農山村の現状を学び、地域問題の理解と解決能力の向上を目指すものです。
- ・ 源流放課後の会は、源流大学の授業を受講した学生のもと小菅村で活動したい、知りたい、貢献したいという思いで、2007年に発足しました。学生たちは、小菅村の暮らし、畑、山、野菜を知りたい、また、村の中で自分たちを伸ばしたいということを目指し、田んぼや畑作業、収穫際の出店や村の行事に参加するなど様々な活動を行っています。
- ・ 具体的には、田んぼ班では、耕作放棄地を田んぼに復活させて、地元の住民に教えてもらいながら無農薬で、かつ昔の道具を使用して米づくりをしたり、畑班は、食べたい野菜を作りたいという思いで、活動をしています。



③ - 2 東京農業大学の学生による発表



③ - 3 法政大学の学生による発表

### ③ - 3 : 法政大学

ゼミの学習内容、多摩川夕涼みコンサートを含めた今年度の活動についての発表です。

#### 【概要】

- ・ ゼミは、パートナーシップの構築、社会実験の実践、都市部と農山村における比較というテーマで実施しています。
- ・ パートナーシップの構築については、持続可能な町づくりを目指して、多様な主体による連携によって、よりよい町づくりを行うことを目的としています。社会実験の実践の場については、文献によって知識を学び、多摩川夕涼みコンサートやサマーカレッジで実践を学び、その経験の反省点を次に生かすというサイクルで行っています。そして、都市部と農山村における比較については、長野県の飯山市の農山村と神奈川県川崎市の都市部を比較して、相違点について検討しています。
- ・ 多摩川に関する活動としては、多摩川への無関心に関心に変えようという目的のもと、出張紙芝居、多摩川版かるた、市民参加型パネルといった企画を今年度実施しました。

- ・ これまでの活動を実施してきた感想として、流域間の連携やパートナーシップの構築の大変さを感じました。また、多摩川を守るためには、地域住民による参加、多様な主体による連携が必要であり、多摩川夕涼みコンサートのように市民が主体的に参加できる場を作ることが私たちの役割だと感じました。

#### ④「多摩川の川づくりについて」： 佐々木 智之（京浜河川事務所 調査課長）

多摩川の河川整備計画の策定から現在に至るまでの取り組みについての発表です。

##### 【概要】

- ・ 平成13年3月に行政や市民、学識者等のパートナーシップによって、河川整備計画が策定され、10年以上が経過しました。
- ・ 整備計画の策定後、平成13年9月や平成19年9月には大きな出水があり、多くの箇所では河岸侵食がおこったり、水位が計画高水位を越えたりもしましたが、幸いなことに河川の氾濫は生じておらず、災害を踏まえた改修を進めています。
- ・ また、改修と合わせて環境の対策も実施しており、例えば今年の6月に完成した二ヶ領上河原堰の改築工事では、魚道の改良を合わせて実施し、生物の生息環境の改善も図っています。
- ・ 自然再生についても市民の方々の協力を得ながら取り組んでいますし、河川の利活用の面では、水辺の楽校の取り組みにより多摩川全体の環境が学習の場として活用されており、水辺の楽校を通して、上流と下流の交流が行われています。
- ・ もちろん、これまでの取り組みで、十分ではない点も多くあります。あらためて整備計画のアクション毎に振り返ってみます。

##### Action1 「治水対策について」

- ・ これまで多くの対策を行ってきましたが、もともと河川整備計画は20年～30年間の計画なので、現時点では十分ではありません。
- ・ また、工事実施にあたっては多自然川づくりを基本とし、環境団体にも意見を聴くなど、試行錯誤しながら実施していますが、まだまだ工夫の余地はあると思っています。

##### Action2 「河川環境の豊かさについて」

- ・ 河川環境の取り組みは、自然再生や水辺の楽校など順調なものもありますが、水辺の整備については、行政刷新会議により指摘を受けるなど、計画策定当時とは状況が変わっています。

##### Action3 「維持管理における協働について」

- ・ 自然再生における連携や、リバーシビックマネージャー、クリーン作戦への参加など、多くの方々に協力をいただいておりますが、まだまだ協働していけることがあると思っています。

#### Action4 「水流実態の解明について」

- ・ 関係機関により行動計画を作成し、水質改善に向けた取り組みを実施していますが、プロジェクトの最大の目的である「多摩川らしい水流」としての目標値の設定はできていません。

#### Action5 「スーパー堤防の整備について」

- ・ 行政刷新会議の指摘を受けた事業制度の見直しがあり、これに伴い、多摩川における今後の整備区間が、破堤した際に人命に関わる被害の発生がより高い区間である、国道1号から下流（川崎市・大田区）とされるなど、計画策定時とは状況が変わっています。
- ・ 次回の多摩川流域セミナーでは、これらのアクションや市民・関係機関とのパートナーシップについて詳細に点検し、その報告をしたいと思っています。次回は平成25年2月16日（土）実施予定です。



④京浜河川事務所（佐々木調査課長）による発表

## ⑤意見交換・フリートーク

### ●主催者に対する質問

Q 1：狛江市の多摩川河川敷で畑の利用が拡大している現状について

A 1：(京浜河川事務所回答)畑の位置が、河川敷内にある民有地であれば問題はありませんが、公共用地であれば、河川管理上問題がありますので、ご指摘の畑（五本松近辺）の利用が違法かどうかについて管理担当部署に確認し、必要であれば対応します。

Q 2：流域自治体の都市計画が多摩川の流量に影響すると思いますが、河川管理者の立場から都市計画に関われるのでしょうか？

A 2：(京浜河川事務所回答)流域自治体の町づくりプランの中で、例えば、スーパー堤防を前提としたプランであったり、川を利用した町づくりを前提としているプランの場合は、自治体と河川管理者は協議しながら進めていきます。

Q 3：流域懇談会の発足年、活動頻度、今まで懇談会が提案したものの中で、実現した政策や施設は何でしょうか？

A 3：(京浜河川事務所回答)発足年は、平成10年です。実現したものはいくつかありますが、流域懇談会や流域セミナーで提案した事項が河川整備計画に反映されたということが、最も大きな成果の1つだと思っています。

Q 4：流域懇談会の意義、位置付けは？

A 4：(京浜河川事務所回答)多摩川は他の河川と違って、流域懇談会という形態で市民と行政が話し合い、同じ目的を共有しながらいい川づくりを行っており、重要な組織だと考えています。今後も、いい川づくりを実施していくために、流域懇談会はなくてはならないものだと思います。これから、より多くの市民がこの懇談会に参加して欲しいと思っています。

Q 5：気候変動は河川整備計画に反映されるのでしょうか？

A 5：(京浜河川事務所回答)現在のところ、まだ反映されていません。気候変動については、本省で有識者の意見を聞きながら全国レベルでの対応方針を検討しているところです。今後、対応方針がまとまった段階で、必要に応じて河川整備計画に反映させていくことも考えられますが、現時点ではまだそのような動きにはなっていません。

Q 6：水害防備林を設ける計画はありますか？

A 6：(京浜河川事務所回答)多摩川では、防備林を設置するスペースがないこともあり、水害防備林を設ける計画はありません。

Q 7 : 多摩川の水について、昔は、水質が悪かったが、現在はきれいになったと感じています。  
水質への取り組みはされているのでしょうか？

A 7 : (京浜河川事務所回答) 一般的に、水質についての法律がなかった昭和 40 年代に水質が最も悪く、その後、法律が作成されたり、下水道整備や各家庭の努力によって、水質は改善されていると思います。

Q 8 : 上流域での水質については？

A 8 : (参加者：水辺の楽校関係者回答) 青梅市で多摩川の水質調査を実施しており、上流、下流ともにきれいな水ですが、下流の水については、下水処理水であるため、上流に比べて下流の水は、イオンの濃度は高くなっています。

Q 9 : 今回の参加大学以外にも、セミナーに参加する大学を増やしてはどうでしょうか？

A 9 : (多摩川流域懇談会事務局回答) 今後、多摩川流域の各大学に多摩川担当を設けることが出来ればと思っています。今回の学生連携を今後も継続し、本格的な大学連携につなげていきたいと思っています。



司会の様子

参加者の質問

## ●学生に対する質問

Q 1 : (専修大学に対して) 発表で紹介のあった、多摩川のエコクイズやウォータースナイパーを見せて欲しいのですが。

A 1 : 現物は今、持参していません。クイズは、多摩川の長さ、魚類の種類、ペットボトルの正しい捨て方や再利用の方法等を内容としています。

Q 2 : (東京農業大学に対して) 小菅村の工芸品はどのようなものですか？

A 2 : 竹製の背負子、クズのツルを利用した籠、切り株を利用した木の食器類です。

Q 3 : (東京農業大学に対して) 源流大学の参加人数はどのくらいですか？また、実施しているキャンパスはどちらでしょうか？

A 3 : 源流大学の講義の登録人数は、年間 100 名です。講義は世田谷キャンパスですが、他のキャンパスの学生でも講義の受講は可能です。また、源流放課後の会については、10 名ほどで、他大学の学生や一般市民も含まれています。

Q 4 : (東京農業大学に対して) キャンパスと小菅村は離れていますが、大変なことはありますか？

A 4 : 交通費は自己負担であり、また時間もかかりますが、それ以上の対価を得ることができません。

Q 5 : (東京農業大学に対して) 今は何を作っていますか？

A 5 : 大根、人参、ヒヨットジュウロク、シャクシナを作っています。

Q 6 : (学生全員に対して) 多摩川での活動をより楽しくするために、希望することはありますか？

A 6 - ① : (専修大学) 学生が集まりやすいバーベキュー場等の施設整備を進めてほしいです。

〃 : (川崎市) 川崎市では 1 箇所バーベキュー場を用意しています。

〃 : (参加者) バーベキューの利用によるゴミ問題や花火による騒音問題があつて、狛江市では廃止されました。住宅と区切ってバーベキュー場を設置してほしいです。

〃 : (川崎市) 川崎市では、住宅地の近隣ではないスペースを利用してバーベキュー場を設置しています。

A 6 - ② : (専修大学) 多くの人に多摩川に興味を持ってもらうために、近隣の中学校、高校と連携して実施していけばよいと思います。

〃 : (参加者 : 水辺の楽校参加者) 水辺の楽校の活動は、地域の子供を対象に自然体験や環境学習を行っています。さらに年に 1 回のシンポジウムを通じて、上流と下流の子供たちの交流を図っています。今後も、国の支援を受けながら、流域各地に水辺の楽校を作って、交流の場を増やしていきたいです。

Q 7 : (学生全員に対して) 学園祭等の学生独自のイベントと行政が関わっているイベントを比較して、行政がイベントについていることでのメリットとデメリットは何でしょうか？

A 7 - ① : (専修大学)

メリットについては、行政がついていることで、学生だけでは考えつかないことについて大人から意見を得ることができました。また、多摩川夕涼みコンサートでは、狛江市側で騒音のクレームが来てしまいました。事前の説明は川崎市側だけではなく、狛江市側にもするべきでした。

A 7 - ② : (法政大学)

学生だけのイベントであれば、話はまとまりやすいが、多摩川夕涼みコンサートでは、学生だけではなく、NPOや行政などからの意見があり、提案事項がブラッシュアップされ、より良くなっていくと感じました。デメリットについては、行政と行政との関わりがもっと必要であると感じました。

A 7 - ③ : (東京農業大学)

メリットとしては、小菅村の役場から支援をいただいております、学生では入れない領域に入れることだと思います。また、学生にとって、提案したことに対して行政が支援をしていく形態のほうが活動しやすいと思います。

⑥閉会の言葉：和泉 惠之（京浜河川事務所所長）

- ・ 10年間の市民と行政とのパートナーシップの成果として、多摩川はとても良い川になってきたと感じます。例えば、多摩川の水がきれいになったとご意見があったり、平成18年頃の調査開始時点では90万匹前後だったアユの遡上数が、今年度、約280万匹になったりと自然環境が改善しています。また、これまでには様々な洪水対策を実施してきました。昭和49年の出水を受けての二ヶ領宿河原堰改築工事やその上流の二ヶ領上河原堰改築工事などです。
- ・ 一方で気候変動の問題や外来種の繁茂の問題、少子高齢化、財政難など様々な課題がありますが、今回は、様々な世代の方々が集まっていただき、ネットワークを広げていく良いきっかけとなりました。今後は、この流域セミナーを通じて、流域間の連携、行政、市民、企業、各世代、行政間など様々な連携をつなげていき、いい川づくりを実施していきたいと思えます。



閉会の言葉（和泉事務所長）

#### 4. 第2部（多摩川の集い）

各団体によるブースの出店がありました。多くの参加者が多摩川鍋やヤマメ、非常食であるアルファ米などを食べたり、多摩川もの知り検定を行ったりと、食べて・見て・学び、楽しい時間を過ごしました。

☆各団体の取り組み

- ・市民部会：多摩川鍋、やまめの塩焼き、等の提供
- ・大田区：非常食（アルファ米、クラッカー）の提供
- ・川崎市：非常食・飲料水の提供
- ・川崎市・(株) オガサワラ：自転車浄水機の展示、「脳はブドウ糖」タブレット試供品の配布
- ・京浜河川事務所：多摩川もの知り検定の実施

#### 【実施状況】



やまめの塩焼き 熱々なうちにどうぞ！



多摩川鍋 温かくて美味しそう！



多摩川鍋・やまめの塩焼き・アルファ米等を食べながら懇親を深めました。  
たくさん食べて、お腹もいっぱいです(^^)



川崎市・株式会社オガサワラによる  
自転車浄水器の体験です。

【自転車をこぐだけで、川の水がとっても  
綺麗になることに子供もびっくり！】  
※災害時には、この自転車を利用して、川  
などの水を飲むことができます。



多摩川もの知り検定実施中



何問解けるかなあ？

## ☆パネル展示

「多摩川の集い」の一環で、大学や行政がパネルの展示を行いました。

### ▶展示内容

- ・専修大学（発表内容）
- ・東京農業大学（発表内容）
- ・法政大学（発表内容）
- ・東京都（東京都の河川事業等）
- ・川崎市（水辺の楽校、二ヶ領用水の今と昔）
- ・多摩市（源流パネル、多摩市水辺の楽校）
- ・京浜河川事務所（多摩川流域懇談会、河川整備計画）



展示の様子



専修大学で作成したアクリちゃん

以上